

カメラ付き携帯電話の撮影マナー

大項目	携帯電話全般
小項目	撮影マナー
タイトル	カメラ付き携帯電話の撮影マナー～勝手に撮影してはいけないもの、肖像権や著作権～
ねらい	カメラ付き携帯電話で撮影する際のマナーを知り、よりよい利用方法を身に付ける。
作成の意図	<p>携帯電話に付いているカメラはとても便利で、気軽に写真を撮ることができる。しかし、勝手に写真を撮られたり利用されたりするのは誰でも嫌なものである。カメラ付き携帯電話の普及に伴い、著作権や肖像権の問題も浮上している。</p> <p>そこで、著作権や肖像権を侵害する具体的な事例を知らせることにより、勝手に撮ってはいけないものがあることや、撮影したい場合は許可を得なければならないことを理解させ、著作権や肖像権、パブリシティ権を守ったよりよい携帯電話の利用方法を身に付けさせる。</p>
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラ付き携帯電話で撮影する際の注意事項について ・著作権について ・デジタル万引きについて ・肖像権について ・迷惑行為について
展開例	<p>(1) 情報モラル啓発資料を配付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話を所有していない者も、一緒に考えさせるようにする。 <p>(2) イラストを見ながら、カメラ付き携帯電話で撮影する際の問題点について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝手に撮影すると、どのような問題があり、どのような対応が望まれるかを理解させる。 <p>①美術館に展示された芸術作品を勝手に撮影すると、著作権侵害になることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『〈用語解説〉著作権』を見ながら、著作権について説明する。 ・自分が作ったものや情報を他人に勝手に使われたらどう思うか、立場を替えて考えさせる。 ・他人のものを自分のものとして、無断で使うことがいけないことであって、きちんと許可を得て利用することが大切であることを理解させる。 <p>②買っていない本や雑誌のほしいページだけを撮影する行為は「デジタル万引き」と呼ばれる重大なマナー違反であることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店の経営者の気持ちになって考えさせ、書店にとって重大な迷惑行為であることを理解させる。 ・店内や商品を勝手に撮影してはいけないことや、他人の家の中を勝手に撮影するとプライバシー侵害になることを理解させる。撮影したい時は、必ず許可を得てから行うようにさせる。 <p>※版面権について・・・楽譜には、大きく分けて作曲者自身による「直筆譜」と出版社による「浄書譜」の2種類があります。「浄書譜」とは、作曲者自身による手書きの譜面を元に、出版社側で浄書という作業を行って作成されたきれいな楽譜です。直筆譜の場合は作曲者の著作権のみですが、出版譜の場合は出版社側の「版面権」を主張されることもあります。版面権とは、手間のかかる「清書」作業自体を保護してほしい、という権利です。この権利は、現在の日本には法による規定はありませんが、出版元の外国等では規定されていることもあります。版面権を日本の法律にも書き加えようという動きは以前からありますが、今日もなお法案の作成すらなされぬままになっています。</p> <p>※デジタル万引きは、撮影画像を不特定多数に配布するなどの行為があった場合はともかく、撮影行為自体は直ちに著作権法違反にはなりません。しかし、書店にとっては重大な迷惑行為であり、店側は管理権者として撮影行為を禁止することができます。</p> <p>③人の顔や姿を勝手に撮影したり、撮影した写真を無断でブログ等で公開したりすると、プライバシーや肖像権の侵害になることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『〈用語解説〉肖像権』を見ながら、肖像権について説明する。 ・知らないうちに、自分の表情や姿を勝手に撮影されたり、公開されたりすると、どんな気持ちになるか考えさせる。 ・肖像権の侵害を避けるため、必ず撮影される人の許可を得るようにさせる。 ・撮影した写真を公開する場合は、用途を説明し許可を得てから行うようにさせる。 ・有名人の肖像には営利上の価値があるため財産権として保護されており、勝手に利用することはできないことを理解させる。現在では顧客吸引力をもつ有名人の肖像や名前を権利として保護する考え方が定着しており、この権利をパブリシティ権と呼ぶことを説明する。 <p>④迷惑行為について理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わいせつ目的で水着の女性を盗撮するなどの行為は、痴漢同様、迷惑行為防止条例違反に該当することを理解させる。 ・実際に起こった事例を確認させる。